

2025年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏名
教育学部	准教授	武 寛子
最終学歴	学位	専門分野
神戸大学大学院 国際協力研究科 博士課程後期課程	博士（学 術）	比較教育学

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

学生の視点にたち、学生の学びや経験が一步でも前へ進めるように寄り添う

【目標】

学生が自身の興味関心のある分野について問題意識をもち、知識と理解を深められる教育活動を行う

【方針】

学生との双方向的なやり取りを通じて、学生が自身の考え方を構築できるようにする

【計画（方法）】

学生との双方向的なやり取りを重視したアクティブ・ラーニングを実施する

○担当科目（前期・後期）

（前期）

教育社会学、教育学概論、幼稚園教育実習事前事後指導、アカデミック・ライティング、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ、総合演習Ⅰ

（後期）

教育課程論、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、総合演習Ⅱ、卒業研究

○教育方法の実践

授業においては、学生との双方向的なやり取りを重視し、アクティブ・ラーニングを基盤とした授業方法を実践した。講義形式の科目においても、学生が受動的に知識を理解するだけでなく、教育に関する諸課題について主体的に考察できるよう、ロールプレイやグループワーク、ディスカッション等の活動を取り入れた。

また、学生が自分の考えを言語化し、他者の意見を踏まえて考えを深めることができるよう、授業内での意見共有や振り返りの機会を設けた。とくに、教育社会学や教育学概論、教育課程論などの科目では、具体的な事例をもとに考察する活動を取り入れることで、理論的知識と教育現場との関連を理解できるよう工夫した。

さらに、演習科目や卒業研究においては、学生一人ひとりの関心や理解の程度に応じた指導を行い、問題意識の形成から考察の深化までを段階的に支援した。これらの取り組みにより、学生が主体的に学び、教育に関する理解を深めることができるよう努めた。

○作成した教科書・教材

教育社会学、教育学概論、教育課程論、アカデミック・ライティングにおける教材資料の作成

○自己評価

教育活動においては、学生の視点に立ち、学びや経験の前進を支えるという理念のもと、双方向的な授業実践を継続的に行った。学生が自身の興味関心に基づいて問題意識をもち、知識と理解を深められるよう、アクティブ・ラーニングを基盤とした授業設計を実施した。

具体的には、教育社会学や教育原理、教育課程論等の講義科目において、ロールプレイやアクティビティを取り入れることで、学生が教育に関する諸課題について主体的に考察し、自らの考えを構築できるよう工夫した。また、アカデミック・ライティングや演習科目、卒業研究においては、段階的な指導を通じて、学生の思考力および表現力の向上を支援した。

さらに、各科目において教材資料の作成・改善を行い、学生の理解の深化を図った。これらの取り組みにより、学生の主体的な学びを促す教育環境の整備に一定の成果をあげることができた。

II 研究活動

○研究課題

スウェーデンの大学における内部質保証に参画する学生代表養成に関する実証的研究

○目標・計画

【目標】

スウェーデンにおける学生の評価リテラシーについて考察する

【計画】

スウェーデンにおける大学へのアンケート調査実施に向けた調査項目の設定

○2018年4月から2026年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

- (1) 山内乾史・武寛子（2024）『学校教育と社会』東信堂。
- (2) 山内乾史・武寛子（2024）『道徳教育と社会』東信堂。
- (3) 武寛子・澤野由紀子・山内乾史「比較教育学の研究倫理」山内乾史編『比較教育学の研究スキル』東信堂、pp.121-132、2019年1月。
- (4) 武寛子「スウェーデンの才能教育」山内乾史編『才能教育の国際比較』pp.53-69、2018年12月。

（学術論文）

- (1) 武寛子（2025）「日本の小学校における多様性と包摂に関するカリキュラム考察－外国語活動・外国語に着目して」『教育研究』愛知文教大学教職課程研究センター、第16号（掲載決定）。
- (2) 武寛子・山内乾史（2025）「学校安全・危機管理に関する国際比較研究（I）－日本とスウェーデン」『佛教大学教育学部学会紀要』佛教大学教育学部、第25巻、pp.1401-1418。

- (3) 武寛子・山内乾史 (2024) 「スウェーデンの基礎学校における『いじめ』対策の動向」『佛教大学教育学部学会紀要』第 24 巻、pp.183-196。
- (4) 武寛子 (2024) 「スウェーデンの大学における学生の評価リテラシーとは何か—『学生の影響力』行使のために—」『高等教育研究』第 27 巻、pp.147-196。
- (5) 武寛子 (2024) 「スウェーデンにおける大学教育の内部質保証への学生参画—学生組合による学生代表ハンドブックの分析—」『比較教育学研究』69 巻、pp.42-60。
- (6) 武寛子・山内乾史 (2023) 「幼児保育教育における子どもの『主体』の視点に関する比較分析」『佛教大学教育学部学会紀要』第 23 巻、pp.163-174。
- (7) 武寛子 (2023) 「道徳教育における人権の視点：『主体性』に着目して」『愛知文教大学教育研究』愛知文教大学教職課程研究センター、第 14 巻、pp.47-56。
- (8) 田中正弘・武寛子 「学生が作成する評価報告書は内部質保証にどのように影響を与えているか—スウェーデンとイギリスの『学生意見書』を参考に—」『筑波大学教育学系論集』第 46 巻第 2 号、pp.1-16、2022 年 3 月。(査読有)
- (9) 武寛子 「自治体における人権教育基本方針に関する比較分析 —人権教育とシティズンシップ教育に焦点をあてて」『国際協力論集』第 29 号第 1 号、pp.149-164、2021 年 7 月。
- (10) 武寛子 「多文化共生の実現に向けた自治体の取り組み」『比較文化研究』愛知文教大学大学院国際文化研究科紀要、第 16 号、pp.53-73、2021 年 3 月。(査読有)
- (11) 武寛子 「スウェーデンの大学における教育評価—授業評価のフィードバックによる内部質保証の考察—」『大学教育研究』神戸大学大学教育推進機構、第 28 号、pp.41-55、2020 年 3 月。(査読有)
- (12) 武寛子 「スウェーデンにおける学生参画による大学教育の質保証—『大学への影響力をもつ学生』の形成へ向けて」『比較教育学研究』日本比較教育学会、第 56 号、pp.46-67、2018 年 3 月。(査読有)
- (13) 武寛子 「教員養成系大学における IR に基づく教育改善方策に関する—考察—HATO プロジェクト・IR 部門による調査結果から—」『日本教育大学協会研究年報』日本教育大学協会、第 36 集、pp.1-11、2018 年 2 月。(査読有)

(学会発表)

- (1) 武寛子 (2025) 「スウェーデンの大学における内部質保証に参画する学生代表の養成—学生組合による学生代表ハンドブックの考察」『日本比較教育学会』第 61 回、於帝京大学。
- (2) 武寛子 「スウェーデンの内部質保証における学生の評価リテラシーとは—学生・学生組合・教員・職員の視点から—」『日本比較教育学会』第 60 回、於名古屋大学。
- (3) 武寛子 「スウェーデンにおける大学ガバナンスへの学生参画」『日本比較教育学会 ラウンドテーブル 日本における大学ガバナンスへの学生参画の可能性—デンマーク、スウェーデン、イギリスとの比較の視点から』第 60 回、於名古屋大学。
- (4) 武寛子 「スウェーデンの大学における学生の評価リテラシーの養成」『日本比較教育学会』第 58 回、於東北大学、2022 年 6 月。
- (5) 田中正弘・武寛子 「学生が作成する評価報告書は内部質保証にどのような影響を与えているか—スウェーデンとイギリスの『学生意見書』を参考に—」『日本比較教育学会』第 57 回、於筑波大学、2021 年 6 月。
- (6) 武寛子 「スウェーデンの大学におけるグローバル化と国際理解」『日本国際理解教育学会』第 29 回、於椛山女学園大学、2019 年 6 月。

- (7) 武寛子「スウェーデンの大学における教育評価による質保証」『日本比較教育学会』第54回、於東広島芸術文化ホールくらら、2018年6月。

(特許)

該当なし

(その他)

【寄稿】

- (1) 武寛子「スウェーデンの大学における新自由主義改革と学問の自由」『北ヨーロッパ研究』北ヨーロッパ学会、第18巻、pp.1-9、2022年6月。
- (2) 武寛子「スウェーデンにおける新自由主義政策下の学校と『いじめ』問題への対応」『おおさかの住民と自治』大阪自治体問題研究所、特集第114号、pp.8-13、2022年5月。
- (3) 武寛子「スウェーデンにおける高等教育のグローバル化と国際化政策」ウェブマガジン『留学交流』Vol.85、pp.14-24、2018年4月。

【辞典項目】

- (1) 武寛子「市民社会と国際教育協力」日本教育社会学会編『教育社会学事典』丸善出版、pp.764-765、2018年1月。

【調査報告書作成】

- (1) 大学基準協会大学評価研究所(2024)『質保証における学生参画のあり方に関する調査研究報告書』学生参画のあり方に関する調査研究部会。

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況(学内外)

- (1) 日本学術振興会 科学研究費 基盤研究(C)
「スウェーデンの大学における内部質保証に参画する学生代表養成に関する実証的研究」
(研究代表者)(2,900千円)(2025年度-2028年度)
- (2) 日本学術振興会 科学研究費 基盤研究(C)
「いじめ問題における「四層構造モデル」の再検討-北欧との比較を通じて-」
(研究分担者)(研究代表者:山内乾史)(300千円)(2025年度-2028年度)
- (3) 日本学術振興会 科学研究費 基盤研究(B)
「大学ガバナンスへの学生参画 学生の役割と得られる利益に着目して」
(研究分担者)(研究代表者:田中正弘)(500千円)(2024年度-2028年度)

○所属学会

日本比較教育学会、日本高等教育学会、日本教育学会、日本教育社会学会、
日本国際理解教育学会、

○自己評価

研究活動においては、スウェーデンの大学における内部質保証への学生参画および学生代表の養成に関する実証的研究を中心に、計画に沿って着実に取り組んだ。とりわけ、学生の評価リテラシ

一に着目し、その概念的整理と実態把握に向けた研究を進めるとともに、アンケート調査の実施に向けた調査設計を行った。

研究成果としては、当該研究課題に関連する論文の発表に加え、スウェーデンにおける教育評価や学生参画に関する査読付き論文を継続的に刊行した。また、学校安全に関わる「いじめ」問題や道徳教育、教育と社会に関する著書・論文を公表し、比較教育学および教育社会学の視点から研究の展開を図った。

さらに、学会発表を通じて研究成果の発信を継続するとともに、大学基準協会大学評価研究所の調査研究に参画し、研究成果の社会的還元にも取り組んだ。加えて、科研費については研究代表者および研究分担者として複数の課題に参画し、研究基盤の確保と発展に努めた。

以上のように、本年度は主たる研究テーマの深化とともに、関連領域への展開および研究成果の発信を継続し、着実な研究活動を行うことができた。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

【目標】

大学の入試業務および国際交流の発展に貢献する

【計画】

入試業務や国際交流に関する委員会を通じて、自身の役割を発揮する

○学内委員等

入試委員会、国際交流委員会

○自己評価

大学運営においては、入試委員会および国際交流委員会の活動に参画し、それぞれの業務において求められる役割を果たした。

国際交流委員会では、International Festivalにおいてスウェーデン紹介ブースの企画・運営に関わり、東邦高校の留学生と協働しながら活動を行った。特に、高校生によるポスター作成に際して大学との調整役を担うなど、円滑な運営に寄与した。また、海外研修に関する情報をゼミ内で共有し、学生への情報発信に努めた。

入試委員会においては、入試業務が円滑に進むよう各種業務に従事し、適切な運営に貢献した。

以上のように、委員会活動を通じて大学運営の円滑な実施に寄与した。

Ⅳ 社会貢献

○目標・計画

【目標】

教育研究活動の実績を社会に還元する

【計画】

スウェーデンの大学における学生参画、学生の評価リテラシーに関する研究成果を、学会誌やシンポジウムなどを通じて還元する

○学会活動等

日本教育学会 教育研究推進委員会 副委員長（2025年10月～2027年9月）

依頼講演

武寛子 (2025) 「スウェーデンの大学における学生参画」『第14回 高等教育質保証学会』於山口県立大学、2025年8月31日。

○地域連携・社会貢献等

- (1) 大学基準協会 教育評価研究所「質保証における学生参画検討小委員会」構成員 (2024年10月1日～2027年3月31日)
- (2) マイナビ社員への論文執筆講座およびコンサルタント

○自己評価

社会貢献においては、教育研究活動の成果を社会に還元することを目的として、学会活動や外部機関との連携を通じた取り組みを行った。

学会活動では、日本教育学会教育研究推進委員会の副委員長として運営に関わるとともに、依頼講演においてスウェーデンの大学における学生参画に関する研究成果を発信した。

また、大学基準協会大学評価研究所の調査研究プロジェクトに参画し、質保証における学生参画に関する知見の整理と発信に貢献した。さらに、企業における論文執筆講座およびコンサルタント業務を通じて、研究成果の実務的な活用にも取り組んだ。

以上のように、本年度は学会および外部機関との連携を通じて研究成果の発信と社会的還元に努め、一定の貢献を果たした。

V その他の特記事項 (学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等)

国際的な場においても自身の教育研究活動を発信できるように、英語運用能力を高める

VI 総括

教育・研究・大学運営および社会貢献の各側面において、当初の目標に沿って着実に取り組んだ。

教育面では、アクティブ・ラーニングを基盤とした双方向的な授業を実践し、ロールプレイやアクティビティの導入を通じて、学生が教育課題について主体的に考察し、自らの考えを深められるよう授業設計を行った。また、講義科目から演習、卒業研究に至るまで一貫した指導を行い、学生の理解の深化と学習の定着に努めた。

研究面では、科研費による研究課題を計画に沿って遂行するとともに、スウェーデンにおける大学教育の内部質保証と学生参画に関する研究を中心に、論文および著書の刊行を通じて研究成果の発信を継続した。さらに、「いじめ」問題や道徳教育、教育と社会に関する研究にも取り組み、専門領域の深化と広がりの方を意識した研究活動を行った。

大学運営においては、入試委員会および国際交流委員会の活動に参画し、各種業務の円滑な運営に寄与した。とりわけ、国際交流事業における企画・運営への関与や学生への情報発信を通じて、学習機会の充実に貢献した。

社会貢献の面では、日本教育学会における委員会活動や依頼講演、大学基準協会大学評価研究所の調査研究への参画、企業における講座・コンサルタント業務を通じて、研究成果の社会的還元に取り組んだ。

以上のように、本年度はとりわけ研究活動において着実な成果を積み重ねるとともに、教育・大学運営・社会貢献の各領域にも継続的に取り組み、全体としてバランスのとれた活動を行うことができた。

以 上